



絹遺産群を推薦

文化審特別委が了承



世界遺産へ前進 「近代産業」で初

文化審議会の世界文化遺産特別委員会（委員長・西村幸夫東京大副学長）が12日開かれ、2014年の世界文化遺産登録を目指して、本県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」を国連教育科学文化機関（ユネスコ）へ本年度推薦することを了承した。近代の産業遺産が推薦されるのは国内で初めて。

特別委の了承は、国内10候補の中から次の推薦を決める最初のステップで今後、関係省庁連絡会議で政府として推薦を正式決定し、9月末までに暫定推薦書をユネスコへ提出。受理されれば、来年1月をめどに正式に推薦する。

順調にいけば、国際記念物遺跡会議（イコモス）が来年夏ごろ構成4資産の保存状況などについて現地調査し、14年夏のユネスコ世界遺産委員会で登録の可否が審議される。同遺産群は、明治政府が1872（明治5）年に設立した富岡製糸場を中心に、製糸場と連携して繭生産に貢献した養蚕関連の田島弥平旧宅（伊勢崎市）、高山社跡（藤岡市）、荒船風穴（下仁田町）の計4資産で構成。高品質な生糸の大量生産を実現し、絹の大衆化をもたらした。

▲ 世界遺産登録を目指す旧官富岡製糸場を
囲むように広がる富岡市